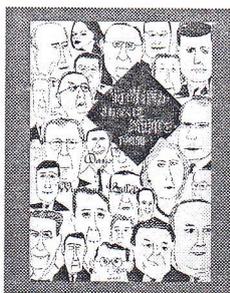


オシャレな本だ。装丁の外
回りはさびげないが、じつは
フランス装と言われる珍しい
作りになっているし、本文
はすべて二色刷り。とりあげ
る人物の特徴を、ときにコミ
カルに、ときにストレートに
描く似顔絵だけでなく、さま
ざまなタッチのイラストがペ
ージを彩っている。



じつに細かな気配りが行き

手嶋龍一著

葡萄酒か、さもなくば銃弾を

屈いたこの本は、そうした点
からだけでも、とにかく手に
とってみる価値がある。なに
よりも、パターン化の大量生
産が進むばかりの今の出版界
ではなかなか出くわせない、
個性的で貴重な本だ。本づく

りを楽しむですよ。
もちろんなのこと、ある意味
では贅沢ともいえる本づくり
が可能だったのは、この本の
内容がそれにあざわしい魅力
を持つものだからだといっ
こと、ことわるまでもない。

国際派ジャーナリストとし
て広く知られた著者が、国境
を越えて養ってきた幅広い人
脈をもとに選びだした、内外
29人の人物を、それぞれどの
ように描写するか。作家とし
ての力量も高く評価されてき
たストーリーテラーならではの
技が光っている。

国際政治で活躍の29人の光る人物スケッチ

たストーリーテラーならではの
技が光っている。

を読む喜びを味わわせてくれ
る。

とりあげられる人物は、ア
メリカ民主克の大統領候補の
座をめぐる、ごくごく最近
まで激闘を繰り広げたバラク
・オバマ、ヒラリー・クリン

さんには、ある歴史的外交
交渉で「密使」として活躍し
た政治学者が、番外編として
終章に取り上げられている意
味を、テレビでもおなじみの

ジャーナリスト 椎名 誠二 評

著者の笑顔を思い浮かべなが
ら考える楽しみまでが残され
ている。外側も内容も、セン
スの良さが光る本だ。

(講談社 1785円)

☆てしま・りゅういち 慶應
義塾大学教授。元NHKワシ
ントン支局長。同支局長時代
に、米同時多発テロ事件に際
し、11日間連続の昼夜放送を
担当。2005年にNHKを
独立後、メディアや書籍など
幅広い執筆活動を展開。著書
に『ライオンと蜘蛛の巣』
『インテリジェンス 武器な
き戦争』(共著)など多数。